



## ●ハイライト●

2025年1月7日-9日: 約5年ぶりに現地参加有でコラボレーション会議をIPMUで開催 (Fig. a)

2025年1月10日: 記者会見

2025年3月22日: 初の科学観測予定!

## ●装置の現状●

- 2024年10月、2025年1月の試験観測でファイバーの相対効率が数時間で変化する現象は、index matching gelの使用で抑制することができる (<~1%) ことが分かった (Fig b)。
  - Gelの塗布・洗浄を組み込んだ運用をPFSプロジェクト、Aプロジェクトから観測所にそれぞれ依頼し、承認を得た。今後人員配置や手順を確立するのが課題。
  - Gel洗浄を効率よくするための機器をブラジルとプリンストン大学が中心に開発中
- 頻繁に較正データを取らないことで近赤外検出器のpersistenceも抑えられるようになった。
  - 近赤外データ処理の改良をパイプラインチームが積極的に進めている。
- 2024年10月から不調だったSM2近赤外カメラのcryocoolerはトラブルシュートを継続してきたが、スペアに交換することで2025年3月に復帰した。
- 故障していたSM1のファイバースリット用のヘキサポッドを2025年1月に業者訪問の下修理した。

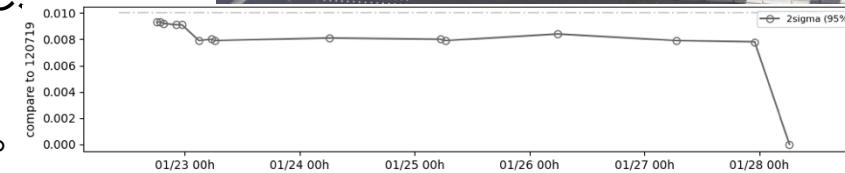


Fig. b

異なる時間に取得した較正光源スペクトルの比の変化の様子とファイバネクタに塗布したgelの様子。



## ●SSP●

- 3月の初回観測の準備を観測所と連携をしながら進めている。

## ●運用●

- 共同利用観測運用チームはS25A期の観測用の準備中
  - 観測用のデザインファイルと観測プランの準備に向け、PIと連携しながら調整中。
  - 観測に使用するツール類には必要な機能が整備され、開発チームからSAへの引き継ぎを順次進めいく予定。
- 2度目のCall for Proposalsが終了し、S25B期におけるPFSのプロポーザル数は、すばる望遠鏡の装置の中でも最も多く、非常に高い期待が寄せられていることが分かる。

## ●その他●

- PFSのハワイ語での名前について、現地のグループと協議中

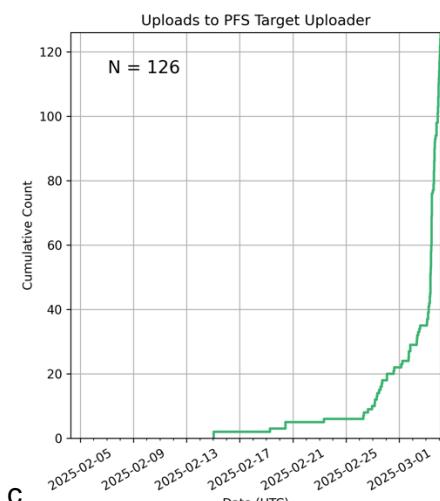


Fig. c

Uploaderに提出されたターゲットの数。締め切り間際に急速に増加している。